

「E U の実質的シティズンシップ—社会的包摂へのアプローチに関する試論—」

埼玉大学 細井優子

経済のグローバル化や統合の深化・拡大により欧州市民社会は以前にも増して文化やアイデンティティの多様化が進み、民主政治の基盤である多様性と社会的連帯の双方を維持することがより困難になっている。欧州統合の重要な理念のひとつである民主政治の揺らぎは、シティズンシップのあり方について再考を促しているように見える。本報告では、E U が取り組んでいる新たなシティズンシップのあり方（実質的シティズンシップ）を捉えるべく、社会的連帯を阻害している現実的な構造（社会的排除）と構造へのアプローチ（社会的包摂）を整理することを目指している。

まず「実質的シティズンシップ」を考察するためには、誰がどのように社会から排除されているのかを明示することが必要となる。そこで本報告では、社会的排除の基準を「労働市場へのアクセス」と「政治へのアクセス」に設定した先行研究をベースに、E U の諸事情を踏まえた社会的排除の類型と包摂への方向性と課題を加え「E U の実質的シティズンシップ」を考察するための見取り図（「E U の社会的排除・包摂の類型」レジュメの図表を参照）を作成した。特に「外国人労働者・移民」を、「E U 加盟国出身者やブルーカード保持者」（D1）、「E U 域外出身者」（D2）、「D2 が本国から呼び寄せる女性配偶者」（D3）に分類し、それぞれが労働市場や政治から排除される仕組みと包摂の方向性・課題を整理した。そして D3 から D1 の順に、形式的にも実質的にもシティズンシップから排除される可能性が高いことを指摘した。また移民 2 世 3 世は D1～3 と比して形式的シティズンシップが認められているにもかかわらず、実質的シティズンシップから排除されていることから、「女性・低所得若年者・障害者」（C）に分類した。

しかし包摂の方向性・課題を整理するにあたっては、さらなる調査・研究による詳細な分類が必要であり、今後の課題でもある。会場の先生からは移民（D1～3）と難民の「トランスナショナルな包摂」の違いに関してご質問をいただいた。それに対して報告者は、倫理的には違いはないが福祉サービスや財源といった現実的な問題において相違が存在すると指摘した。またそれを受けて他の先生から、難民は D により近くなる避難民（displaced person）と政治難民（political refugee）に細分類が必要であるのご助言をいただいた。「E U の実質的シティズンシップ」を考察するための見取り図を完成させることを目的とした研究のプロセスにおいて、このような機会とご助言をいただくことができ、見取り図の精緻化に向けて一歩前進することができたことに深い感謝の意を示したい。